

令和5年度 学校総合評価

重点課題に関する総合評価

今年度は8つの重点課題を掲げ取り組んだ。A評価は1つに留まり、B評価が7つであった。探究活動の充実、ICTの活用、各教科の評価方法など、いくつもの新たな事案に取り組んできたことを考慮すれば、全体として目標は概ね達成できたものと考えている。また、遅れていたスクールポリシーの策定にも取り組み、令和6年度のスタートに向けまとめることができた。発信し、実践していくことになる。

新型コロナウイルス感染症が5類に移行されてから行動制限が緩和され、授業や学校行事、部活動をはじめとする課外活動など、生徒たちは様々な活動に積極的に参加することができ、成長につながったものと考えられる。さわやか運動に加え、救命講習や性に関する講演会など生徒向けの講演会も、コロナ禍前の形で行えるようになり、生徒指導部や保健部の企画した教育活動を進めることができた。一方、3年間のマスク生活が続いたこともあり、5類移行後もマスクをつけたままの生徒が一定数いて、挨拶を自らすすんでできる生徒の育成が進まない1つの要因となっているように思われる。また、生徒会活動においても生徒の活躍の場を準備してきたが、主体的に活動できるよう更なる取り組みが求められる。

今年度からすべての学年の生徒が1人1台の端末を持つことになったが、ICT活用を進めるにあたり、教員間のスキルの差をなくすことが求められる。観点別評価に対する理解は進んだが、その評価が本来の目的である生徒の学習や教員の教育活動に活かせるよう継続した努力が必要である。

進路支援に関しては、収集した情報を迅速かつ正確に発信することを心がけ、実践した。動画配信による大学の講義の視聴や、オンラインによる大学の研究室訪問などの機会を設け、志望動機具体化を図ることに繋がった。

教育活動全体にICT化が進み、保護者、生徒に対する学校からの情報発信や緊急連絡に加え、生徒の欠席連絡への利用も浸透してきた。

次年度への課題と方策

すべての生徒が1人1台の端末を持ち、ICT活用を進めようとしているが、生徒1人ひとりが学習用のツールとして活用しているとは言い難い。授業の中でも、家庭学習においても活用し教育の向上に繋がるよう、一層の努力が求められる。コロナ禍の休校中に取り組んだことを継続し、活用を進めている教員と、コロナ禍前の授業形態に戻ってしまった教員とで大きな差が出てきている。新型コロナウイルス感染症が5類に移行され、日常の行動はコロナ禍前に戻ろうとしている今、本来の教育目標と対面での人と人との関わりの重要性を今一度確認しながら、ICTの利点を生かした新しい教育活動を模索したい。そのためには校内教員研修を企画し、教員間の情報共有を図らなければならない。また、学習習慣の定着と学力の一層の向上は当然の課題であるが、協働性やコミュニケーション能力が求められる時代において、挨拶をはじめとする生活習慣の重要性を伝えるとともに、探究活動や課外活動を通し、社会で求められる人材の育成に努めたい。

重点課題(アクションプラン)

1 学習活動 (教務部)

目 標	①ICT を積極的に授業で活用する ②本校の実態に即した評価方法の構築
方 策	①クラスルームを積極的に活用するように、教科主任を通して啓発 ②教務会議を通して、年間を通じて議論するとともに、他校の事例等の情報収集を行い、本校の実態に即した評価法を構築
達 成 度	①個人端末を授業で使うことについては、かなり浸透してきた感がある。しかし、まだまだ教員間の ICT スキルの差があり授業での活用に大きな差が生じている。 ②他校の情報収集を積極的に実施し、教務会議で取り上げた。各教科主任とも情報共有し、教員間の情報共有や統一した評価方法への理解は深まった感がある。
具体的な取組状況	①学級閉鎖時の課題提示や授業の予習・復習、テストの振り返りなど多様な場面で活用するように促すことができた。 ②教科主任を中心に3観点評価については、本校の実態に即した評価となるよう工夫をお願いした。
評 価	B
次年度への課題	①ICT 機器が学習道具となるように、更なる活用の方策を考えなければならない。 ②再度、カリキュラムを点検し、大学入試を踏まえた本校の実態に即した学習評価の在り方を考える必要がある。

2 学校生活 (第1学年)

目 標	高校生活の土台としての学習習慣と基本的な生活習慣の確立
方 策	①総合的な探究の時間での活動を軸とした生徒の主体的な学びの機会の提供 ②授業を大事にさせる指導 ③担任による朝のショートホームルームでの生徒への声かけの徹底 ④学年主任・副担任による朝のショートホームルーム時の巡視 ⑤あいさつ、服装指導を全教員で徹底する ⑥個別面談、個別指導の充実
達 成 度	概ね計画通り達成できた
具体的な取組状況	①総合的な探究の発表を年3回行った。発表に至るまでの自己理解・他者理解・グループでの学びの深め合いを積極的に行った。総合探究担当教諭の指導のもと、5月にこども国連環境会議推進協会事務局長、井澤友郭氏による「問いづくり講座」、9月にはスタディサブリ探究講座の山内恵介氏による講演会を実施するなど年間を通し生徒たちに考える機会を設けた。担任のほか学年主任・副担任も積極的に各教室の総合探究を担当し、生徒の主体的取り組みを促し、生徒の視野を広げることができた。学年主任は他校の総合的な探究の発表を視察し良い事例は取り入れた。 ②学年主任・担任による授業中の巡視、授業前の指導、学年集会での指導を数多く行い、非常勤講師との連携の密も図った。「赤点学習会」を放課後に実施し、のべ25名参加し学習する機会を確保した。

	<p>③slack を使用して朝礼で話すべき話題の共有, 「リボン強化週間」といった指導の短期集中による強化を行い, 各担任が朝礼時に指導, 学年主任を中心に学年集会等での指導, 廊下での声かけを行った。</p> <p>④年間を通して学年主任を中心として, 教室前の廊下を巡視することを行った。</p> <p>⑤生徒指導における強化週間を設け, 「挨拶」「時間厳守」「正しい服装」の徹底を全教員で行った。</p> <p>⑥学年主任は成績面で進級が危ぶまれる生徒 13 名全員と面談。総合コースから特進コースへの変更を志望する特別授業参加者約 40 名全員と年間を通して面談した。各担任は面談週間を中心に日頃から面談するように心がけ実践した。</p>
評 価	B
次年度への課題	<p>①総合的な探究のレベルをさらに上げるための工夫の研究が必要である。スタディサプリとの連携の強化, 生徒の使用頻度を上げる。</p> <p>②学習面, 生活面共に中だるみさせない指導の工夫。生徒の主体的かつ協働的な取り組みの機会の設定。</p> <p>③生徒との個別面談の充実。時間の確保とともに進路の実現のための的確な指針の提示。</p>

3 探究活動 (第 2 学年)

目 標	実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし, 自分で課題を立て, 情報を集め, 整理・分析して, まとめ・表現することができるようにする。
方 策	<p>①外部と連携し, 社会課題を多面的に深く学び, 思考する力</p> <p>②仲間との探究活動を通して, 主体性や協働性を高め, 自らの意思を伝達できる力 (コミュニケーション力)</p> <p>③探究活動の成果をまとめて発表する力 (表現力)</p>
達 成 度	概ね計画通り達成できた
具体的な取組状況	<p>①多様な分野の大学の先生方を招き, 探究学習の中間発表を実施した。生徒は教授と 1 対 1 でプレゼンテーションをし, リサーチクエストに対する意見交換を行った。自分の意見を主張しながら, 新しいものの見方を教えていただき大変有意義な時間であった。</p> <p>②行事があるごとに振り返りを実施した。上手くできたこと・できなかったことを踏まえ, 自分が何を学び, どう成長したのかを考えた。また, 振り返ったことを友人と共有し, 話し合うことで, 自分の考えをより深めたり, 相手の気づきから学びを得たりすることができた。</p> <p>③ポスター発表, パワーポイントや論文を用いた発表など相手にメッセージが伝わるように表現方法を学んだ。</p>
評 価	A
次年度への課題	取り組んできた探究をより高度な「学術探究」という領域に足を踏み入れて実施したい。そのためにもどのような学問があるのかを知り, 身近なテーマを学問につなげて考えられるようにしていきたい。また, 進路実現のための幅広い視野の育成にも関連づけることのできる活動を実践する。

4 生徒指導（生徒指導部）

目 標	<p>①公共交通機関利用マナーの向上及び自転車運転ルールの遵守の徹底</p> <p>②すすんであいさつができる生徒の育成</p> <p>③教育目的を達成するために必要かつ合理的範囲内において学校が校則を運用できているか、校則の内容が生徒の実情、保護者の考え方、地域の状況、社会の常識、時代の進展などを踏まえたものになっているかなどの観点から見直しをはかれるようガイドラインを作成する</p>
方 策	<p>①校前指導を毎朝行う</p> <p>②「さわやか運動」などであいさつや声掛け、乗車マナー指導を行う</p> <p>③交通安全や乗車マナーに関して、学年集会・「学年通信」・S.T.などを通して具体的な例をあげて呼びかける</p> <p>④交通安全指導の日（毎月1日・15日）に、通学路に出向き指導を行う</p> <p>⑤校則見直しの際には、生徒が話し合う機会を設け、生徒が何らかの形で参加できるよう留意するとともに、校則に関する教員研修なども企画する</p>
達 成 度	<p>①今年度の交通事故は17件であった。また乗車マナーに関する苦情が若干あったが、後半は前半に比べ交通事故や公共交通機関の利用マナーに関する苦情は減少し、ある程度目標は達成できた。</p> <p>②コロナ禍でマスク着用中に大きな声で挨拶をするという習慣がなかったのか、コロナ5類移行後脱マスクとなっても、まだすすんで挨拶する生徒が多いとは言えない。</p> <p>③校則の見直しを図っているが、まだ道半ばである。今年度は女子のソックスを見直し、学校指定のソックスは式典のみの着用とした。</p>
具体的な取組状況	<p>①今年度から「さわやか運動」が良い効果を上げることを期待して、保護者や地域の方と連携した体制での実施を再開した。</p> <p>②新入生のオリエンテーションにおいて自転車の交通安全に関する講話を行った。</p> <p>③7月に教員対象の生徒指導部研修会を行った。</p>
評 価	B
次年度への課題	<p>①交通ルールやマナーの重要性を訴え、交通安全講習会などを実施する。</p> <p>②さわやか運動などを契機として挨拶の重要性を薫陶する。</p> <p>③校則の見直しはまだ始まったばかりであるが、生徒がルールを我が事として考えられる契機を得させたい。</p>

5 生徒会活動・特別活動（生徒会部活動振興部）

目 標	委員会活動や学校行事、ボランティア活動等を通して、主体的に活動できる生徒を育成する
方 策	<p>①委員会活動において、委員主体で計画立案や役割分担について話し合い、実践させる</p> <p>②文化祭や体育大会など学校行事の事前活動において、生徒が見通しを持って主体的に活動できるよう支援する</p> <p>③ボランティア活動についての情報発信を充実させる</p> <p>④部活動加入を促し、人間関係形成や自己実現を図ろうとする態度を育てる</p>
達 成 度	①各委員会で前期・後期に会議を開催し、活動計画を立て委員主体での活動

	<p>に取り組んだ。</p> <p>②各行事において、生徒が主体的に活動できた。</p> <p>③随時、classiによる情報発信を行えた。</p> <p>④4月上旬に新入生部活動紹介の動画作成等を工夫し、勧誘を行ったが、4月末現在の部活動加入率は51.2%に留まった。</p>
具体的な取組状況	<p>①生徒会長選挙や生徒議会が行われ、生徒会活動が活発化した。昨年度より継続活動してきた校則の見直しが行われた。</p> <p>②行事の事前準備の時間を確保し、内容が充実してきた。</p> <p>③毎年の活動に加え、地域と連携し「ちいちか。新庄北ぼらんていあ部」に希望者が参加した。</p> <p>④春はポスター掲示等で部活動加入を促した。夏、秋はclassiで大会応援の参加を促した。冬は立志で活動報告を行った</p>
評価	B
次年度への課題	<p>①部活動加入率が低下している。</p> <p>②学業に加え様々な活動に参加し、生徒が成長できるよう、支援することが必要である。</p>

6 保健指導（保健部）

目標	<p>①生命を尊重し、生涯にわたり自らの健康を管理できる生徒を育成する</p> <p>②感染症予防対策の実践力を高める</p> <p>③学内の衛生環境の改善</p>
方策	<p>①保健の授業で応急処置や心肺蘇生法を習得させる</p> <p>②総合的な探究の時間に、消防署職員・AED指導員による救命講習を受講させる（対象は1年生）</p> <p>③総合的な探究の時間に、医師による性教育・LGBT・がん教育講演会を受講させる(対象は1年生)</p> <p>④毎朝の健康観察、保健の授業、保健室だよりの配信等を通して感染症予防や健康管理の意義を学ばせる</p> <p>⑤保健主事を中心に学内の環境衛生の向上に努める</p> <p>⑥保健委員会（第三者を入れた委員会）を企画・実施する</p>
達成度	全体を通して概ね達成できている。しかし、振り返りや満足度については今後改善する余地がある。
具体的な取組状況	<p>①保健体育教員を中心に保健の授業時に概ね達成した</p> <p>②消防署職員・AED指導員の方々の協力を得て概ね達成でき、20名程度の当日欠席者の講習も終了している</p> <p>③講堂に一同(1学年)を介しての講演を実施した</p> <p>④春・夏・冬の計3回の保健だよりを配布し、健康管理の意義を学ばせたが、毎朝の健康観察については入力者数を増やすに至っていない</p> <p>⑤積み残し案件として、各クラスへのサーキュレーター導入と製氷機の増台がある</p> <p>⑥学校保健委員会（第三者を入れた委員会）の企画まではできたが、実施までの日程が短く、実施することができなかった</p>
評価	B

次年度への課題	①保健だより発行の定期化 ②各クラスへのサーキュレーターを導入と製氷機の増台 ③学校保健委員会の実施
---------	--

7 進路支援（進学指導部）

目 標	①入試改革に伴う新しい入試制度及び大学入学共通テストの分析，特に令和7年度入試より新しく導入される「情報」についての情報収集と指導方法を検討し，生徒の進路志望に合った有効で実践的な情報提供を行い，進路目標実現へ向けた適切な指導を行う ②動画配信等オンラインによる教材を利用し，生徒の基礎学力の向上を図り，進路目標の実現に近づくよう指導する ③入試に関する変更点等の情報をいち早く提供することで，教員間，特に3学年の担任と共有し，生徒が不安なく受験できる環境を整えることができるように努める
方 策	①大手予備校からの情報や各種学校説明会に参加して得た情報を取捨選択し，各学年の担任に校内 LAN を活用して適宜配信し，情報の共有を図る ②各種学校や業者から送付されてきた資料について，校内 LAN を活用し，担任を通じて生徒に配布できる環境を整える ③各学年の特性に応じた適切な情報を配信する 1 学年：2年次に選択する文系・理系の情報に加え，1年次から受験を意識できるような情報の提供 2 学年：各種学校の設置する学問分野の情報だけではなく，入試制度に関する情報の提供 3 学年：志望校決定の参考になる情報や入試制度および昨年度の状況に関する情報の提供 ④生徒の進路志望調査をもとに，複数の教員が共通理解を持ち，進路実現につながる指導を行う ⑤動画配信を利用した大学の講義を見たり，大学の教員と直接話したりすることによって，志望進路の具体化につなげる ⑥受験に関する様々な事項のオンライン化に対応し，情報提供や機材の貸し出し等を行う
達 成 度	校内 LAN による教員への情報提供に加え，情報伝達ツールを活用することにより生徒や保護者へ直接提供でき，生徒の進路選択の一助となった。
具体的な取組状況	①大学等，各種学校から送られてくるオープンキャンパスやイベントの案内を，情報伝達ツールを使って保護者や生徒に直接配信した。 ②動画配信による大学の講義の視聴や，オンラインによる大学の研究室訪問により，志望動機具体化を図った。 ③予備校の講師による進路講演を行い，生徒の進学への意識を高めた。
評 価	B
次年度への課題	①従来の情報提供に加え，新課程入試に向けた情報収集を行い，的確に生徒へ伝わるように工夫する必要がある。特に，「情報 I」については，情報科と指導内容や方法について連絡を密に取り，進めていく必要がある。 ②総合型選抜・学校推薦型選抜を受ける生徒が増えている現状を鑑み，対策を講じる必要がある。

8 情報発信（総務部）

目 標	<p>①在校生とその保護者に向けた様々な情報を迅速に発信し、本校の教育への理解と協力を得て、信頼関係を深める。</p> <p>②受験生とその保護者に向けて、本校の特色や魅力を積極的に発信し、生徒募集活動を一層推進する。</p> <p>③出願から入学手続きまでの入試業務を見直し、効率化を図る。</p>
方 策	<p>①日頃の授業や行事等の活動内容を適切な手段で適宜発信する。</p> <p>②受験生やその保護者に対して、広報活動を充実させる。</p> <p>③昨年度から導入したインターネット出願システム（miraicompass）の利活用について改善する。</p>
達 成 度	<p>①Classi を利用して、生徒・保護者へ必要な情報を迅速に発信できた。</p> <p>②ホームページにおいて、学校行事や部活動の成績を中心に情報発信したが、日頃の授業に関する活動報告は少なかった。また、インターネット出願に関する問合せ対応のため、miraicompass の使用方法や手順等をホームページに掲載するなど改善できた。</p>
具体的な 取組状況	<p>①部活動顧問や各部署の協力により、ホームページで学校行事や部活動の結果等の教育活動について、こまめに情報発信した。</p> <p>②部署ごとに Classi を利用して、生徒・保護者に必要な情報を迅速に伝え、情報伝達の効率化とペーパーレス化を図った。</p> <p>③オープンハイスクール・部活動体験会・学校説明会等への参加は、miraicompass を利用して申し込みできるようにした。また、オープンハイスクール実施後、Google Form を活用して、教職員にアンケートを実施し、広く意見や改善点を収集した。</p>
評 価	B
次年度への 課題	<p>①本校の教育活動について積極的に発信し、広報活動をより充実させ、生徒募集活動を推進する。</p> <p>②総務部会議を定期的に行い、行事内容や運営、業務について見直しを図り、業務改善や新たな企画に取り組む。</p>